

一内藤新宿より之駄賃并人足錢江戸迄

荷物壹駄六拾七文 乗掛荷人共同斷 从尻馬壹疋四拾四文略○中

右之通可取之若於相背者可爲曲事者也

明和八年月日

奉行略○中

安永元辰年四月十一日

内藤新宿繼場相成候儀御觸書

水野出羽守殿御渡

甲州道中は江戸高井戸宿より人馬繼來候處内藤新宿繼場相成當月十四日より登りは江戸内藤新宿高井戸宿下りは高井戸宿内藤新宿江戸と人馬繼立候間可得其意者也

右之趣向々江可被相觸候

四月

右之通可被相觸候

〔新編江戸志五〕板橋

中仙道の海道筋也板橋の名は古來よりあり鎌倉大草紙に板橋城の事あり豊島氏末流此處に住して板橋と稱するもあり北條分限帳にも板橋志村とあり上板橋下板橋とわかれて兩道あり

〔江戸名所圖會十三〕板橋驛 中仙道の首にして日本橋より二里あり往來の行客常に絡繹たり

東海道は川々の差支多しとて近世は諸侯を初め往來繁ければ傳舍酒舖軒端を連ね繁昌の地たり驛舎の中程を流る石神川に架する小橋あり板橋の名こゝに發るとぞ板橋は上下に分此橋と稱す上板橋は練馬通道をいひ、此地よりは西南の方の通路をいふ、